

## 第2期第7回 帯広市産業振興会議（第2グループ）次第

日時：平成24年8月17日（金）18:00～

場所：帯広市役所庁舎10階第3会議室

### I. 開会

### II. 会長挨拶

### III. 協 議

#### 1. 会議の進め方について

#### 2. 意見交換

- (1) 「1. 中小企業の経営基盤の強化」について
- (2) 「5. 集客・交流産業の振興」について

### IV. その他

### V. 閉 会

- 配付資料
- ・ 会議の進め方について
  - ・ 第6回産業振興会議におけるご意見等一覧（第2グループ）
  - ・ 第6回産業振興会議議事録要旨（案）

# 会議の進め方について

## 1 ねらい

別紙一覧に基づき、「優先度・目標貢献度」「具体性・実現性」「中小企業者との協働」の3つの視点から評価を行い、提言事業の絞り込みを行う。

## 2 会議の進め方

- ① 別紙一覧の3つの視点欄について、あてはまるものに「○」を記入いただく。
  - ② 各委員がつけた「○」の数を集計する。
  - ③ 集計を踏まえて議論を行い、以下の3つに整理する。
    - ア) 提言事業：平成25年度の事業化に向けて深掘りを行うもの
    - イ) 課題項目：来年度実施するビジョン見直しの参考とするもの
    - ウ) 検討項目：今後の取扱いについて改めて検討するもの
- ※ 各テーマについて、①～③を繰り返す。
- ※ 提言事業以外の項目を含め、ビジョン見直しに向けた「提言書」にまとめる。

## 3 スケジュール

8月17日（金）	第7回会議（第2グループ、課題の絞り込み）
8月23日（木）	第7回会議（第1グループ、課題の絞り込み）
9月中	第8回会議、第9回会議（解決方策の検討）

## 第6回産業振興会議におけるご意見等一覧(第2グループ)

## 【1. 中小企業の経営基盤の強化】

No.	委員名	内 容	優先度・目標貢献度	具体性・実現性	中小企業者との協働
1-1	兼 子	海外マーケットの開発(BOP、農業商社機能など)			
1-2	後 藤	人材が定着するための魅力づくり			
1-3	後 藤	域外のインターンシップを呼び込む助成制度の創設			
1-4	後 藤	起業や設備投資に係る税負担の軽減(特別償却等)			
1-5	後藤・志子	金融円滑化法失効後の対応			
1-6	志子田	地域の企業や商品の魅力発信			
1-7	志子田	地元企業の現状把握			
1-8	志子田	環境変化に対応するための情報発信			
1-9	仙北谷	市場変化に対応した企業活動のバージョンアップ支援			
1-10	仙北谷	若手経営者と大学生・高校生との直接対話			
1-11	仙北谷	資産課税からフロー課税への転換			
1-12	中 谷	太陽光発電事業への積極的な参入促進			
1-13	中 谷	インターンシップを活用した企業インタビュー等の実施			
1-14	眞 鍋	経営・商業の基本や、財務・情報管理などへの支援			
1-15	眞 鍋	経営基盤に関する各機関の支援の棲み分けと連携			
1-16	眞 鍋	外部コンサルタントへの投資支援			
1-17	眞 鍋	商店街活性化手法の抜本的見直し			
1-18	眞 鍋	青年・壮年を対象とした実践的教育			
1-19	眞 鍋	異業種進出への支援(季節的なモノ、繁忙期以外のトライ、地理的条件の活用など)			

## ※アドバイザー・オブザーバーのコメント

No.	氏名	内容
A1-1	大 貝	金融円滑化法失効後の短期的な対応と、中長期的な対応を考えることが重要。
A1-2	大 貝	墨田区では月1回ペースで1年かけて意識改革に取り組んでいる。中長期的にどう人材を育成するかが重要。
A1-3	大 貝	全数でなくとも、個々の企業の実態把握をする必要がある。
A1-4	大 貝	インターンシップでは、経営者になぜこの仕事に打ち込んでいるかや、今後の夢について語ってもらうことが重要。
A1-5	河 合	金融円滑化法失効後の企業再生支援(河合オブザーバー)

## 第6回産業振興会議におけるご意見等一覧(第2グループ)

## 【5. 集客・交流産業の振興】

No.	委員名	内 容	優先度・目標貢献度	具体性・実現性	中小企業者との協働
5-1	兼 子	国内外からのLCC誘致			
5-2	兼 子	伝統的な日本食や日本文化を体験できる場			
5-3	兼 子	民族文化に合わせた気配り			
5-4	後 藤	情報誌等を活用した観光地ベスト10の選定			
5-5	志子田	とちぎ帯広空港におけるナイトステイ誘致			
5-6	志子田	十勝・帯広の観光地の明確化(観光地総選挙など)			
5-7	仙北谷	観光に資する景観の整備・保全(景観条例制定など)			
5-8	中 谷	十勝・帯広の「観光応援団」の活用			
5-9	中 谷	JR帯広駅などでの十勝らしさを感じる演出(馬など)			
5-10	眞 鍋	地道な情報発信(帯広の場所を理解してもらうなど)			
5-11	眞 鍋	機材小型化や中部・関西への対応			
5-12	眞 鍋	新千歳に乗り入れているLCC対策			
5-13	眞 鍋	インバウンドの受け入れ(設備など)			
5-14	眞 鍋	レンタカー利用個人旅行者への道東道開通の周知			
5-15	眞 鍋	FCなどメディア露出の拡大			
5-16	眞 鍋	情報拠点や道の駅の整備			
5-17	眞 鍋	目的・手段・季節に合わせた観光面での計画的な広域連携			
5-18	眞 鍋	実務者向け資格(場の提供、目印などを含む)			
5-19	眞 鍋	十勝ブランドの推進、加工品での名産品づくり			
5-20	眞 鍋	料理としての工夫や附加価値を高める努力			
5-21	眞 鍋	物産展において誘引効果を生み出す仕掛け			

## 【5. 集客・交流産業の振興】

No.	委員名	内 容	優先度・目標貢献度	具体性・実現性	中小企業者との協働
5-22	眞 鍋	「旬のお取り寄せ」への対応			
5-23	眞 鍋	十勝のアンテナショップ(首都圏商店街との提携など)			
5-24	眞 鍋	素材の良さに対価を支払って戴ける為の努力(紹介)			
5-25	眞 鍋	管内流通システムの構築(十勝産に特化した卸売市場など)			

## ※アドバイザー・オブザーバーのコメント

No.	氏 名	内 容
A5-1	大 貝	地域資源を活用していかにストーリーづくりを進めるかが重要。
A5-2	大 貝	十勝・帯広の魅力を地域で共有するとともに、域外の人々が何を期待しているかをマッチングさせていくことが重要。
A5-3	大 貝	大型バスツアーよりも家族単位での観光が増えており、モデルを提示する必要がある。
A5-4	大 貝	外国人観光客にアナウンスできる素材づくりや、外国語で話ができるスタッフの配置が必要。
A5-5	大 貝	「食べる」、「見る」だけでなく、少しでも体験できる要素を組み込んでいくことで、リピーターが増えていく。
A5-6	河 合	十勝をコーディネートする機能を持つ機関